

科目名	電気回路 I			担当教員	矢木正和		
学年	情報 2 年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	専門	授業形式	講義・演習	科目番号	09I02_30080	単位区別	履修単位
学習目標	<p>電気回路は電気・電子工学の基礎をなすもので、きわめて重要な科目である。</p> <p>1 学年で得た直流回路の基礎知識を基に、オームの法則やキルヒホッフの法則などの諸定理を用いた回路解析法を身につけ、さらに、三角関数や記号法を用いた定常状態における基本的な交流回路の取り扱いを習得する。</p>						
進め方	<p>授業は原則として、教科書の内容にしたがって進める。カリキュラムの関係上まだ学んでいない数学などは、その都度解説する。適宜演習問題を与え、演習ノートに解くよう指導する。小テストを行うことで習熟度を確認しながら回路解析の基本的な力を養成する。</p>						
履修要件							
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. ガイダンス，電流と電圧，抵抗(2) 2. オームの法則，理想電源(2) 3. 回路方程式，電力(2) 4. 小テスト，キルヒホッフの法則(2) 5. 小テスト，電圧および電流の分配則(2) 6. 小テスト，電源の内部抵抗(2) 7. 重ね合わせの原理，まとめ，演習(2) 8. 前期中間試験(1) 9. 試験問題の返却・解説(1) 10. 行列(式)を用いた連立方程式の解法(2) 11. 小テスト，閉路解析法(2) 12. 節点解析法(2) 13. 小テスト，テブナンの定理(2) 14. 小テスト，諸定理を用いた回路解析(3) 15. まとめ，演習(2) 16. 前期末試験(1) 17. 試験問題の返却・解説，微分の基礎(2) 18. 微分・積分の基礎(3) 19. 小テスト，正弦波交流(4) 20. 小テスト，受動素子の作用(4) 21. 小テスト，交流電力と実効値(3) 22. 小テスト，RL回路とRC回路(2) 23. まとめ，演習(2) 24. 後期中間試験(1) 25. 後期中間試験の返却・解説(1) 26. 複素数の基本的性質(3) 27. 小テスト，複素数における微分と積分(1) 28. フェーザ表示(1) 29. インピーダンスとアドミタンス(2) 30. 小テスト，電力の複素数表示(2) 31. まとめ，演習(2) 32. 学年末試験(1) 33. 後期末試験の返却・解説(1)			<p>直流回路における各回路素子の働きを理解し、オームの法則、キルヒホッフの法則を使った簡単な回路の回路解析ができる。</p> <p style="text-align: right;">D2:1,2, D5:1</p> <p>諸定理を用いた基本的な直流回路の回路解析ができる。</p> <p style="text-align: right;">D2:1,2, D5:1</p> <p>交流回路の解析に必要な微分・積分ができる。</p> <p style="text-align: right;">D1:1,2, D5:1</p> <p>正弦波交流に対する各階路素子の働きを理解し、簡単な交流回路の回路解析ができる。</p> <p style="text-align: right;">D2:1,2, D5:1</p> <p>複素記号法を理解し、基本的な交流回路の回路解析ができる。</p> <p style="text-align: right;">D2:1,2, D5:1</p>			
評価方法	<p>最終的な評価（学年末）は、各定期試験の得点 85%、演習ノート 15%の比率で評価する。</p> <p>小テストの得点は、それぞれの定期試験の得点に 20%の比率で加味する。</p> <p>試験では、基本的な問題が解けるか、やや複雑な回路解析ができるかを評価する。</p> <p>演習ノートと小テストでは、復習ができてきているかを評価する。</p>						
関連科目	基礎電気工学						
教材	教科書：鎌倉友男 他著 「電子工学初歩シリーズ 3・4 電気回路」 培風館						
備考							